



2020年5月11日

各 位

会社名 日本 KFC ホールディングス株式会社  
代表者名 代表取締役社長 近藤 正樹  
(コード番号 9873 東証第2部)  
問合せ先 取締役専務執行役員 金原 俊一郎  
TEL.(045)-307-0605

2020年3月期通期業績予想の修正及び  
営業外費用（連結）、特別損失（個別）の計上に関するお知らせ

当社は、2020年2月12日に公表しました2020年3月期（自2019年4月1日至2020年3月31日）の通期業績予想の修正及び連結決算における営業外費用の計上、個別決算における特別損失の計上につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2020年3月期通期連結業績予想の修正（2019年4月1日～2020年3月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	80,000	4,600	4,900	3,400	152円12銭
今回修正予想(B)	79,634	4,785	3,252	1,533	68円62銭
増減額(B-A)	△365	185	△1,647	△1,866	
増減率(%)	△0.5	4.0	△33.6	△54.9	
(ご参考) 前期実績(2019年3月期)	74,344	2,206	2,975	2,055	91円99銭

## 2. 修正の理由及び連結決算における営業外費用の計上

売上高につきましては、主力のケンタッキーフライドチキン（KFC）において、日常利用の促進策を強化し、チェーン売上高が年間を通じて好調に推移したこともあり、おおむね前回公表した業績予想どおりとなる見込みです。営業利益につきましては、これに加えて、原価率の改善及び経費最適化を促進したことにより売上高販管費率が改善したことで業績予想を上回る見込みとなりました。

しかしながら、持分法適用関連会社において、直近の決算内容、また新型コロナウイルス感染症拡大による消費動向の変化、これに起因した売上高の減少等により収益性が低下し当該会社株式の実質価額が著しく下落したため、2020年3月期の連結決算において、持分法による投資損失1,935百万円を営業外費用に計上することとなりました。

これらの結果、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、業績予想を下回る見込みとなりました。

なお、期末配当予想につきましては、本件業績予想の修正による見直しは行いません。

## 3. 個別決算における特別損失の計上

当該事象により、2020年3月期の個別決算において、関係会社株式評価損2,060百万円を特別損失として計上することとなりました。

なお、当該関係会社株式評価損は、連結決算において相殺消去されるため、連結業績に与える影響はありません。

(注) 業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

以 上